奈良県立大学同窓会報
ふなはし
2019年3月1日
第12号

発行責任者：　奈良県立大学 同窓会
〒630-8258　奈良県奈良市船橋町10番地
奈良県立大学内　同窓会事務局
TEL：0742-22-4978
E-mail：npu_dousoukai@yahoo.co.jp

会員の相互交流と連携強化

奈良県立大学同窓会会長　楠本　雅章

奈良ふなはしを吹き抜ける春風も心地良いこの頃、同窓生の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は奈良県立大学同窓会の活動にご理解とご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。おかげさまで２０１８年も充実した活動を継続することができましたことをご報告申し上げます。

昨年の同窓会活動におきましては、長年の目標である“関東圏（東京）に同窓会支部設立”の動きが一歩前進しました。１１月８日東京マリオットホテルで開催された平成３０年度「ふるさと奈良の集い」では、首都圏で活躍の奈良県出身の方々、また奈良県と縁の深い方々に、奈良県立大学の存在をアピールしました。翌日の９日には東京在住の奈良県立大学卒業生（商科大学５期生）と会談することができ、東京支部設立に向けての準備を話し合いました。早急に、関東圏在住の卒業生の連絡網の構築と本年度中には、少人数でもよいので一度集まる機会を設けること、などで意見が一致しました。同窓会の目的「会員の文化的、経済的な向上を目指し、相互の親睦及び本学の発展をはかること」により、会員の相互交流と連携強化をすすめていかなければならないと思っております。

また、大学の「教育研究支援基金」のご寄付の要請では、多くの会員の皆様に賛同・協力をいただき誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

本年は従来の活動の他、学生の就職支援活動の取組として、企業・団体に勤める先輩から「業務内容や社風・社内の雰囲気」等を直接聞くことができるＯＢ・ＯＧ訪問の受け入れもキャリアサポート室と連携をとりながらすすめていきたいと考えています。

本年も同窓会役員一同、鋭意努力いたしますので、何卒変わらぬご支援ご指導を賜りますようにお願い申し上げます。会員の皆様のますますのご健康とご多幸を祈念いたします。

同窓会臨時総会報告

報告：副会長
井上 光博

平成30年3月25日（日）11時から奈良県立大学地域交流棟2階中研修室において臨時総会が開催されました。

今回の臨時総会は、同窓会会則の全部改正、会計規則の新設及び新役員の選出を議題として開催され、35名が出席されました。会則の改正に至った経緯は、本会則は昭和32年から施行され、大学移行に伴い平成2年に大幅に改正されましたが、当時は同窓会活動が活発でなく、終身会費の明記、同窓会活動の制限、役員の資質・選出方法・解任、個人情報の守秘義務など詳細な規定をしていませんでした。また、28年経過して役員の固定化が進む中で、今後、同窓会の私物化や利用などの恐れが出てくる可能性があり、適正な運営を図るために現状に即した項目を追加し、曖昧な部分を削除や整理して、会計規則を併せ今回の全部改正に至りました。

質疑応答では5名から質問があり、役員が回答しましたが一部納得されない事項はありましたが、採決があり賛成多数で可決しました。引き続き、会計規則及び新役員の説明が行われましたが、役員人事で理事と監事の兼任が指摘され、監事を独立させることにより承認されました。

最後に楠本会長から新役員を代表して、長時間にわたる審議へのお礼と、東京支部新設等の新事業に取り組む姿勢が示され、役員の世代交代も図っていきたいと挨拶があり臨時総会を終えました。

※臨時総会の議事録は同窓会ホームページにアップしています。

同窓会2019年間スケジュール

4月：県立大学入学式　(会長出席他)
5月中旬：事業部ボランティア活動
（佐保川清掃活動今年度も参加予定。）
10月(予定)：　同窓会通常総会
11月(予定)：「秋華祭」模擬店参加支援
3月：卒業式　同窓会会報発行　他・・

● 佐保川清掃活動 ボランティア報告 ●

平成30年5月20日（日）晴天に恵まれた中、今年も同窓会役員5名で参加しました。

毎年5月の第3日曜に朝の8時から大学のそばの佐保川小学校に集合。佐保川で蛍の住める川を目指して行われている行事です。今年も一緒に覗きませんか？参加は誰でも自由です。

奈良県立大学の将来ビジョン

奈良県立大学学長
伊藤　忠通

コモンズ棟外観イメージ図

私は、本学の前身である奈良県立短期大学が４年制大学の奈良県立商科大学として創設された1990年に奉職して30年、平成の時代を県立大学とともに歩んでまいりました。この間、2001年に奈良県立商科大学から奈良県立大学へ名称を変更するとともに商学部から地域創造学部へ改組転換、また2007年に夜間学部から昼間学部へ移行、2015年に公立大学法人に移行等、本学はさまざまな変化を経てまいりました。

グローバル化の時代、本学では留学生の派遣・受入、研究者間の学術研究交流等、海外の大学との交流を通じた国際化は進んでいませんでしたが、いまではアジアや欧米の10を超える大学と協定を結び、学生や教員による国際交流が行われるようになりました。

2018年に県立高等学校適正化計画が公表され、2021年4月に奈良県立大学附属高等学校が開設されることになりました。公立大学法人で附属高校を新たに設置する例はめずらしく、高大接続が進められる中、どのような高校をつくり、教育における高校と大学の連携を通じた人材育成に取り組むことに注目されています。

2015年春に新校舎「地域交流棟」が完成しました。その後のキャンパス整備が遅れていますが、漸く2019年夏頃から次の新校舎「コモンズ棟」の建設がはじまり、2020年春には完成の予定です。昭和40年代に建設され、老朽化した校舎を更新することは本学にとって長年の課題でした。建物の一部は耐震化工事を終えましたが、いずれ更新時期が来ます。キャンパス全体の整備にはまだまだ時間が掛かりそうですが、今後、教室棟、体育館、図書館等、順次整備を進めて行く予定です。

2015年の法人化とともにスタートした6年間の第1期中期計画(2015～2020)は間もなく4年を過ぎ、2021年にスタートする第2期中期計画(2021～2026)の策定に着手します。18歳人口の減少、高等教育改革等、高等教育を巡る環境が大きく変化する中、長期ビジョンに基づく大学のマネジメントが不可欠です。キャンパス全体の整備計画、大学院の設置等、将来を見据えた本学の「将来基本構想2040」の策定を検討しています。

コモンズ棟内部イメージ図

以上のようなことから、2019年は奈良県立大学にとって今後の発展のための画期になると考えています。

最後に、私は2010年4月に学長に就任し、2019年は在任10年目を迎えますが、任期が満了する2020年3月をもって退職いたします。年内に学長選考が行われ、2020年4月には新学長が就任されます。新学長のもと本学がますます発展することを願っています。同窓会の皆様には、これまでのご支援に感謝申し上げますとともに、今後とも引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

第６回ホームカミングデイ

於　2018年10月7日(日)

報告：副会長　髙島　邦子

第6回ホームカミングデイが、奈良県立大学地域交流棟2階「中研修室」において11時から開催されました。司会は、地域創造学部3回生で、秋華祭実行委員会の同窓会担当の野々村彩加さんにお願いしました。

先ず、主催者を代表して楠本会長から、「週末ごとの台風の接近を心配しましたが、幸いにも晴れて、年に1回の同窓生が集まり旧交を温める機会にご出席いただき、有難うございます。大学の発展のために、配布の基金申込書で寄付をよろしくお願いいたします。今回の岡本先生のお話は滅多に聴くことが出来ませんので、最後までお楽しみ下さい」と挨拶を述べました。

続きまして、ご来賓の伊藤学長からご祝辞を賜りました。「今年も懐かしいお顔に会えて、嬉しく思います。短大を知っている最後の教員となってしまいました。2020年に新校舎が完成しその後も建物が次々と立て替えられて、短大時代から思えば、大学の姿が一変することになります。また、大学の付属高校が2021年に開校予定です。奈良県の中で発展する大学に変貌していきます。このように毎年1回、卒業生が大学を訪れる機会を、継続して設けて頂いた同窓会と大学の連携が益々深まることを願います。

講演会に先立ち、講師の奈良県立大学の岡本彰夫客員教授のプロフィールの紹介が行われました。

岡本先生は昭和29年に奈良県で生まれ、昭和52年に國學院大学文学部神道学科卒業後、春日大社に奉職されました。春日若宮おん祭の御旅所祭など祭儀の旧儀復興など、数々の神事を本儀に復すことに尽力されました。また、平成7年の第59次式年造替においては、明治維新期に失われた儀式をほぼ完全な形に復興させました。これらの功績により平成13年より27年まで春日大社権宮司を務められました。その傍ら、奈良女子大学の非常勤講師や、帝塚山大学の非常勤講師・特別客員教授を歴任されました。

現在は、奈良県立大学客員教授および宇賀志屋文庫庫長をされると共に、平成17年より人材育成の塾を各種創設されたり、NHKならナビで「大和まだある記」に出演されたり、多方面にわたり活躍されておられます。さらに、『大和のたからもの』など、著書も多数出版されておられます。

講演のテーマは「大和の食～その誇りの系譜～」です。

◆「大和の食　～その誇りの系譜～」

（講演内容抜粋掲載）　講演：岡本彰夫 客員教授

志賀直哉が「大和にうまいものなし」と書いて、一般に信じられていますが、そんな事はない、奈良にも美味しいものが沢山あるという思いから、このテーマを選びました。

「祝詞」は神に捧げる美しい大和の言葉であるのに、文学的評価がされていません。『祈年祭、廣瀬大忌祭、龍田風神祭祝詞』の主な一節を朗々と読み上げて、祝詞は語調が大事で、声に出して読むとよく分かります。お米は神様の庭で作られていて、地上に下された大事な食べ物ですので、「祈年祭」と「新嘗祭」と年に2回、山の神と水の神に感謝の祈りを捧げます。

「延喜式」は平安時代に、律令制度の基で制定された施行細則であり、奈良時代の言葉で記されているものとして、今日まで全文が残っている貴重な資料です。この延喜式で神祇官の役割や神社の格式、祝詞などが決められています。現在でも、延喜式に記載された祝詞が用いられています。

平安京に遷都されても、春日大社などの神社仏閣は都に移らず、天皇は大和の神社に勅使を遣わせました。平安京には東福寺が建立され、東大寺と興福寺というお寺の名前を併せて名付けられました。大和は日本の権威の場所であることに変わらず、豊かな土地があり田舎のままで俗化させなくて良いと誇りを持っています。大和は1,300年間そのままに残り、日本人はこの文化に誇りを持つべきと思います。

資料の『春日年中神供材料品目一覧』は、興福寺と合わせて21,000石の所領を拝領する強大な神社である春日大社の門外不出の重要な物であり、鎌倉時代の神様へのお供えの記録です。

「御飯」「重物（おもの）」「居御菜（すえごさい）」「伊岐」「果物（きくだもの）」「餅油物」「その他四半を用うる神供」に種別され、懐石料理の基本となるものです。日本の菓子は、木に生った果実のことで、遣唐使が中国から持ち帰った唐菓子は、粉を使っています。その当時のお供えの特徴について、大和の伝統野菜を中心に説明します。伝統野菜は、極めて限られた場所でしか採れません。現在、八条町の「水菜」、結崎の「葱（ねぶか）」は10軒程しか作っていないので、流通していません。手間が掛かり収穫量は少ないですが、美味しいので、生産者が自家用に栽培します。

1月1日の神様のお供えには、「御飯」は白米だけでなく、黒米や赤米も使われます。納豆、大根、法論味噌（ほろみそ）、和布（わかめ）、蕪、神馬藻（ほんだわら）が、おかずとして添えられています。「法論味噌（ほろみそ）」は一休寺由来のおかずになる味噌で、僧侶が試験勉強をして眠くなった時に、舐めていました。法論味噌としては既に商標登録されていますので、明日香味噌の名前で登録して復元されています。

「重物」は中心になる食物で、エソ、ナマコ、鮑、ヒボノ魚（鯉の代用）が瀬戸内から運ばれ、生の魚が珍重されます。なお、干物は「軽物」と言われます。

1月2日に蒟蒻、豆腐、野老（ところ＝山芋）、ムカゴ、3月3日に山芋、チシャ、5月5日に竹子、フキ、ソバ、野イチゴ、枇杷、柿、7月7日に白瓜、青瓜、アコダ瓜、真桑瓜など、その季節に採れた農作物が供えられています。

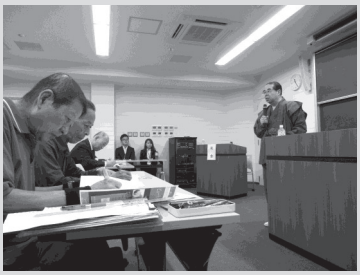
享保21年（1736年）の『大和志』に基づいて、江戸時代の大和の特産物について、原本に継ぎ足して特徴を述べます。

添上郡には菩提子（菩提樹の実）、方柿（やまとがき）、雞蹤（ねずみたけ）、蘿蔔（だいこん）、西瓜、桃、奈良暦、甲冑、刀剣、鐙（あぶみ）、漂布（さらし）、墨、団扇、酒、糟瓜（ならづけ）、饅頭（まんじゅう）、法論味噌（ほろみそ）があります。

安倍晴明で有名な、暦の編纂、占い、天文（日蝕、月蝕）を司る陰陽寮は、京都の賀茂一族が中心でしたが、応仁の乱の戦火を逃れて京都から脱出しました。暦を作るために、賀茂家の分家の幸徳井家を奈良から呼び寄せました。しかし、賀茂家が戻ってきたため、幸徳井家を奈良に帰して、「奈良暦」を作ることを許可したのです。

東大寺の公慶上人が元禄5年（1692年）に大仏を修復され、開眼供養が1か月に亘り執り行われ、大阪から奈良まで大勢の人が押し寄せて、圧倒的に売れた奈良土産は「饅頭」でした。中国から帰化した林浄因が伝えたのが、餡を入れた饅頭で、日本の饅頭の発祥の地は奈良です。どうして、このような誇りある菓子を大切にしないかと思い、春日若宮の「おんまつり」にお供えされる紅をさした美しい饅頭を復活させ、大和の名物にしました。

添下郡には牛蒡、白堊（しろつち＝白壁用材）、漆柿、西大寺の豊心丹、漂布（さらし）、高山の茶筅、菅原の陶壺（すえつぼ）と九条の塼爐・土盌（せんろ・かわらけ＝素焼きの器）、薬師寺の剪勝（つくりばな）があります。大和の薬は、「豊心丹」のように水銀を使用のため現在は製造できず、その殆どが姿を消しました。菅原から九条にかけて焼き物に適した良質な土が産出して、一帯が伏見と呼ばれていました。埴輪を作る土師から始まった焼き物を作る人々が京都に移住した際に、伏見という地名を京都に残しています。



平群郡には牛蒡、薯蕷（つくねいも）、生駒山の菩提子、禹餘糧（すずいし）があります。「禹餘糧（すずいし）」は、鈴のような音が鳴り、茶褐色で漢方薬の原料となります。吉野郡には山人参、葛粉、蕨粉があり、いずれも漢方薬の原料です。

式上郡には三輪山の松蕈（まつたけ）、三輪の麺線（そうめん＝三輪そうめん）、黒崎の饅頭（まんじゅう）があります。山辺郡には白甜瓜の他、天理の「三島の水苔（のり）」は絶品でしたが、絶滅しました。

寛政3年（1791年）の『大和名所図会』は当時のベストセラーでした。春日御水茶屋で主人が「火打焼」を焼いている傍で、子供や旅人が鹿と戯れる様子が描かれています。火打焼は、春日大社の「ぶと」が門外不出のために、「ぶと」に似せて庶民が食べた菓子ですが、現在は途絶えてしまいました。

嘉永6年（1853年）の『西国三十三所名所図会』で取り上げた黒崎の「女夫饅頭（めおとまんじゅう）」は、酒まんじゅうで、包んでいる竹の皮の筋が模様のように入っていて、本居宣長が食べたとされる由緒正しい饅頭です。桜井の長谷で復元例があります。

『西国三十三所名所図会』にしか載っていないものもありますが、『大和名所図会』と比べて殆ど出回らず、古本の価格が高いです。豊富な資料に基づいたお話が余韻を残しました。

あっという間に時間が過ぎて、講演会が終了しました。岡本先生は春日大社に奉職されて、貴重な資料を長年の間研究してこられました。その結果、得られた幅広い知識の蓄積を、90分という短時間では語り尽くされないと思われます。

今回は「大和の食」を取り上げられて、軽妙洒脱な分かり易い表現で、数々のエピソードを混じえてユーモアたっぷりに講演して頂き、聴衆一同が、お話に惹き込まれました。大和を愛し、途絶えてしまった伝統野菜や歴史ある味噌や菓子の復活に情熱を注ぎ、尽力されてこられたその思いに、魅せられてしまいました。

私たちが学んだり住んだりしている奈良の長い歴史について、改めて感じさせられるものがあり、誇りを持って暮らしていきたいと思いました。是非いつの日か、岡本先生の豊富な引き出しから、テーマを変えてご講演いただく機会をお願いしたいと思います。

講演会終了後に、奈良県立大学秋華祭実行委員会副委員長の西村笙平さんから、11月4日（日）の秋華祭のお知らせがありました。

「53回目を迎えた今回のテーマは『秋華でござ(53)います！今年の主役は誰だ！？It's Me！！』で、在学生、卒業生、地域の皆さまとのつながりを大事に、大いに盛り上がりたいと思います。

25団体の模擬店、同窓会の抽選会、餅つき大会、ミニゲーム、シネマフォトカード作りなど、すべての人が主役という思いを込めて、大勢の人が参加できる多彩なプログラムの準備に励んでおります。皆さまにご支援をお願いの上、ご参加をお待ちしております」と締めくくられました。その後、屋上に移動してから記念撮影を済ませて、1号館の「大学生協ダイニングルーム」において、13時20分から懇親会を行ないました

司会の野々村さんから開会の挨拶があり、今回、お手伝いをして頂いた在学生5名を紹介しました。野々村さんは落ち着いた明瞭な発音で、的確に進行をして頂きました。西村さんも秋華祭のお知らせをして頂き、学生の皆さんもテキパキと業務を遂行して頂き、お世話になり有難うございました。

先ず、乾杯のご発声を今年3月に卒業されました稲垣昭則様にお願いいたしました。続きまして、ご来賓の辻本常務理事様にご挨拶を賜りました。「今年の4月から赴任してまいりました。入学者は奈良県内から20名余りで、卒業生の県内への就職も少ない状況で、大学の知名度が低いと感じております。奈良のことをもっと知ってもらいたい、岡本先生のお話のように誇りを持って奈良で暮らし続けたいと思えるように、学生を教育していきたいと思います。OBの皆さまにも、よろしくお願いいたします」。

歓談中、主催者を代表して井上副会長からお礼のご挨拶をさせて頂きました。「本日はお忙しいところ、短大の卒業生や若い卒業生など年齢を超えて、大勢の方々にお集まり頂きまして、有難うございました。大学の発展とご出席者の益々の健康を祝して、ここで一本締めで唱和したいと思います。料理も沢山残っておりますので、お時間の許す限り、もうしばらくの歓談をお願いします」。懇親会は、15時30分頃に閉会して、今回のホームカミングデイは無事に終了いたしました。

来年は総会が開催されますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

ご来賓、同窓会員ならびにスタッフの学生の皆様、
ご協力有難うございました。

奈良県立大学県民講座　取材記

2018年11月15日(木) 奈良春日野国際フォーラム「甍」

平成30年度奈良県立大学県民講座（第2回）が開催され講師は奈良県立大学の**北岡伸一理事長**でしたので、取材に行ってきました。演題は**「明治維新と現代」**です。

明治維新100年の時に、マルクス主義の経済学者は、フランス革命、ロシア革命に比べて中途半端で良くないと評価が高くありませんでした。

吉野作造、岡義武、北岡理事長の政治史の立場からは、民族主義の革命で、尊皇は中央集権、攘夷は対外的自立を意味するものと捉え、藩に分かれずに国が一つになり、列強に対処しなければ生き残れないと考えたと主張しました。ライシャワー等の近代化論の中で、どうして日本だけが非西欧から発展できたのかと疑問を呈されました。

明治150年を迎え、時系列に変革を追っていきます。

慶応3年10月（1867年）に徳川幕府が大政奉還し、12月に天皇中心の王政復古が成立して、徳川260年の武士の時代が終わりを告げました。鳥羽伏見の戦いや各地での戦争が終結して、慶応4年を明治元年とされました。版籍奉還と廃藩置県で封建制から中央集権へと変革を遂げ、新政府の主だった者100人規模で、岩倉使節団が欧米に派遣されて2年近く、各国を視察しました。結果として、政府の運営に役立ったと思われます。

明治6年に征韓論紛争で、大久保利通は盟友の西郷隆盛を追放し、秩禄処分で武士を廃止して徴兵制を導入しました。西郷隆盛を中心として、薩摩と長州の不満武士が反乱を起こした西南戦争で、政府軍が勝利したことを最後に、少ない犠牲で大きな革命が成功しました。薩長の勝利でも、武士の権力の継続でも、天皇の勝利でもありません。規制を撤廃して自由にする自由主義革命であり、政治における民主化革命であり、能力を重視する人材登用革命でした。

明治維新を可能にした要因として、江戸時代の遺産が役に立った面があります。

幕藩体制で、幕府は国政を、藩は地方行政をそれぞれ担って、農と兵が分離して武士や町民が住む城下町が発展し、1年ごとの参勤交代では藩の財政を圧迫させますが、経済的に宿場町が豊かになり、街道が整備され安全になりました。城主が1年間江戸に住むことにより、城主同士の付き合いが広がり、江戸の素晴らしい文化が全国に拡散されていきました。戦争が無くなり、江戸前期は、生産力が向上して人口も増大し、教育の普及で識字率の向上は世界的に有数の水準に達し、国民意識が成熟しました。

その反面、軍備は江戸初期のままで、鎖国のため航海能力が低下し、基本的に徒歩で移動するので、交通が限界を迎えました。徳川幕閣の少数の者が政治を行い、政治的自由の欠如、オランダ語の蘭学のみで、学問の自由の欠如という弊害も現れました。

新政権の成立後、「五箇条の御誓文」で政府の基本方針を示し、公議輿論の尊重や西洋文明の導入が述べられています。大久保政権では、議会制を導入して国民を政治に参加させる構想を始め、板垣退助らの自由民権運動で農民（豪農）の政治参加を求め、1890年に議会が開設されました。1885年には内閣制度が成立して、初代総理大臣に伊藤博文が就任し、1889年に憲法が制定されました。

明治維新の残された課題は、天皇の地位を政治的利用せずにどのように考えるのか、軍をどのように統率するのかということです。

現代への教訓として、西洋の脅威は1800年頃から明らかなのに、幕府は何の対応もできなかったのと同様に、現在の少子化や外国人労働者の必要は、30年前から明らかなのに、政府の政策は遅れています。

様々な規制があり、憲法改正すらできない現状です。役所の年次信仰や、大学の偏差値信仰も無くなりません。

少子化克服には、国際化とアイデンティティが鍵となります。フランスでは外国人を大勢受け入れて、子育ての支援策を手厚くしています。日本の働き方改革は起こりつつあります。

多様性を認める事は力強く、エネルギーになります。スポーツの例のように、多数の身体能力の優れた選手が活躍しています。奈良は元々、中国人、韓国人、ベトナム人、イラン人がそれぞれの文化をもたらして、共存していました。

基盤としての象徴天皇制の力が大きいと思います。被災地への度重なるご訪問など、真摯な公務への姿勢を示されておられます。直系男子制を続けることへの将来の不安が大きく、政府共々、肝心なことに向き合わねばならないと思います。

北岡理事長は世界各国を訪問して、視野が広く、世界から日本がどのように思われているのか、絶えず考えられておられます。明治維新の迅速で低コストで大規模な変革を僅かな期間で成し遂げたことと比べて、現代の政治は余りにも速度が遅く、重要な問題を後回しにしているのではないかと危惧されておられると感じました。

最後に質疑応答に移り（1）国連における日本の役割について、（2）憲法改正について、（3）日本人のスピード感覚は劣るのではと、会場からの質問が出ました。

北岡理事長から（1）日本は、常任理事国の主張に振り回されず、ルールに基づいた国際協調をまとめる。（2）9条1項は問題なし、2項は必要最小限度の軍備は認められているので、時代と共に変わる。憲法改正は時間が掛かるので、解釈の変更で法律の中で変更した方がいい。（3）今は日本全体を考える事態にないか分からないが、何かを変えようとするとネガティブな事のみ主張して、変化を恐れる事が多いと答えられました。

以上で、学生を含めてほぼ満席の講演会が終了しました。

(報告/取材：髙島 邦子)

第53回 秋華祭　-大抽選会模擬店出店-

報告：副会長　京本勝弘

秋華祭は毎年盛況です！

平成30年11月4日(日)晴天に恵まれた、奈良県立大学のキャンパスで開催された秋華祭に、同窓会「ふなはし」は、後援として大抽選会で参加し、絶好の行楽日和に午前10時からのオープニングの前から、学生、地域の方々の親子連れ、等の参加者でキャンパスはにぎわいました。

体育館内ブースでの大抽選会はハズレ無しで毎年一等の新米1kgで大好評です。模擬店で商品を買うと100円抽選券が一枚もらえ、5枚で一回抽選が出来るので、学生の模擬店販売支援にも一役買っています。

一等を当てた人は新米を手に記念写真を撮ったり、ある学生は一度に5回も抽選をして末等しか当たらなかったので、一等の新米を当てるまで何度も来ましたが結局当たらず残念。それでも二等の奈良名産品を当てることができ、喜んでおりました。

毎年、大抽選会は行列が出来るほど人気が高く、お昼過ぎには当選商品は品切れになり閉店となりました。

船橋商店街の有志による餅つき大会や特設舞台では、シルバーカレッジの皆さんによる英語の合唱があり、吉本の若手人気漫才師による漫才など、大変賑わった秋華祭でした。

来場者の皆さんは楽しい一日と喜んでおられました。同窓生の皆様もお誘いあわせの上、来年の秋華祭を覗いて見られてはいかがでしょうか。

『ふなはしサポーター』募集中

●「同窓会サポーター」を募集しています。イベントや活動時に一日だけ簡単な作業などのお手伝いをしていただける方を募集し「ふなはしサポーター」として登録します。（活動仕事内容によっては些少の謝礼も有ります。）OB・OGだけでなく、現役学生の方も登録可能です。皆様のご参加をお待ちしています。

▽詳細は　事務局連絡先へ直接、役員又はEメール
npu_dousoukai@yahoo.co.jp までご連絡を…。

同窓会事務局からのお知らせ

●同期会やゼミ会のご報告を募集しています。

懐かしい友との再会のご寄稿お待ちしています。またゼミ会同期会報告や日時のお知らせも会報(年一回3月発行)では受け付けていますので12月末までにご連絡いただければ会報に掲載します。会員の皆様の交流の場としてご利用下さい。

●広報部は会報記事をご寄稿をしていただける方を募集しています。OB・OGの方々のご活躍の様子など情報をお寄せいただけますと広報部が取材に伺います。

▽連絡先はこちら：直接役員へ、又は同窓会事務局Eメール

npu_dousoukai@yahoo.co.jp までご連絡ください。

Webサイト『奈良県立大学同窓会』で検索。
http://奈良県立大学同窓会.jp

奈良県立大学同窓会ふなはし

facebook グループ始めました

https://www.facebook.com/groups/funahashi/

★上記 URL もしくは
右 QR コードにアクセス

◎同窓会ホームページ◎
「奈良県立大学同窓会 Web」もよろしく
http:// 奈良県立大学同窓会 . jp

ふなはし

◇編集後記◇　本年度は臨時総会、ホームカミングデイと、昨年に引き続き多忙な一年となりました。新規役員も増え、東京支部を設立目標に掲げており範囲が広がりそうです。またご高名な理事長や客員教授など内外に広くご活躍されてる御多忙の方のなかなか直接お話を聞くことのできない講演を拝聴する機会があったのは、稀有な一年ではなかったかと思われます。大学付属の高校も作ることを目指すようですし、学府のあるべき姿の大学の骨格がどんどん充実していくので、卒業生としてはとても誇らしい。役員我々もそれに倣うよう頑張らねば。　　編集：千葉